

1. 歴史伝統館に係る検討

(1) 現状と課題

◆現状

- ・草津市には、浮世絵、民具などの貴重な文化財が存在していますが、文化財の収蔵に適した公共施設がないため、現在、野村運動公園内に設置した仮設のプレハブや民間倉庫を借りて保管している状況です。
- ・また、重要文化財等は、文化庁の認定を受けた施設でなければ、それらを保管・展示することができないことから、現在、栗東歴史民俗博物館などの施設を借りて保管している状況です。

表一草津市が収集している資料（指定文化財以外）と収容場所

収蔵資料	収蔵場所	収蔵点数
考古資料	野村収蔵整理室 野村収蔵庫	4,000～5,000箱 (400×600×15のコンテナ)
美術・工芸資料	民間倉庫	約150点
歴史資料	民間倉庫	約9,200点
	草津宿街道交流館	約15,600点
民俗資料	民間倉庫	約100点
	草津宿街道交流館	約100点
その他 (交通関係、郷土資料等)	民間倉庫	約720点
	草津宿街道交流館	約640点

表一草津市が収集している主な指定文化財・資料の寄託先

寄託先	収蔵資料	収蔵点数
奈良国立博物館	重要文化財	6点
大阪市立美術館	重要文化財	3点
京都大学博物館	重要美術品	1点
京都国立博物館	草津市指定文化財	1点
滋賀県立琵琶湖文化館	重要文化財	2点
	滋賀県指定文化財	237点
	草津市指定文化財	12点
栗東歴史民俗博物館	重要文化財	1点
	草津市指定文化財	1,007点
合計		1,270点

◆課題

- ・草津市にある埋蔵文化財や重要文化財等の貴重な歴史・文化資源を、適切に収蔵、保管、展示できる施設（文化庁の認定を受けた施設）がありません。そのため、重要文化財については、栗東市歴史民俗博物館などの市外の施設に保管を依頼しており、市民が地域の貴重な歴史・文化に触れ、教養や知識を高める機会が不足しています。
- ・埋蔵文化財等は、それを発掘した自治体において適切に収蔵・保管し、調査研究を行い、市民に公表することが原則であるため、これらの機能を備えた施設の整備が必要です。

(2) 必要性の検討

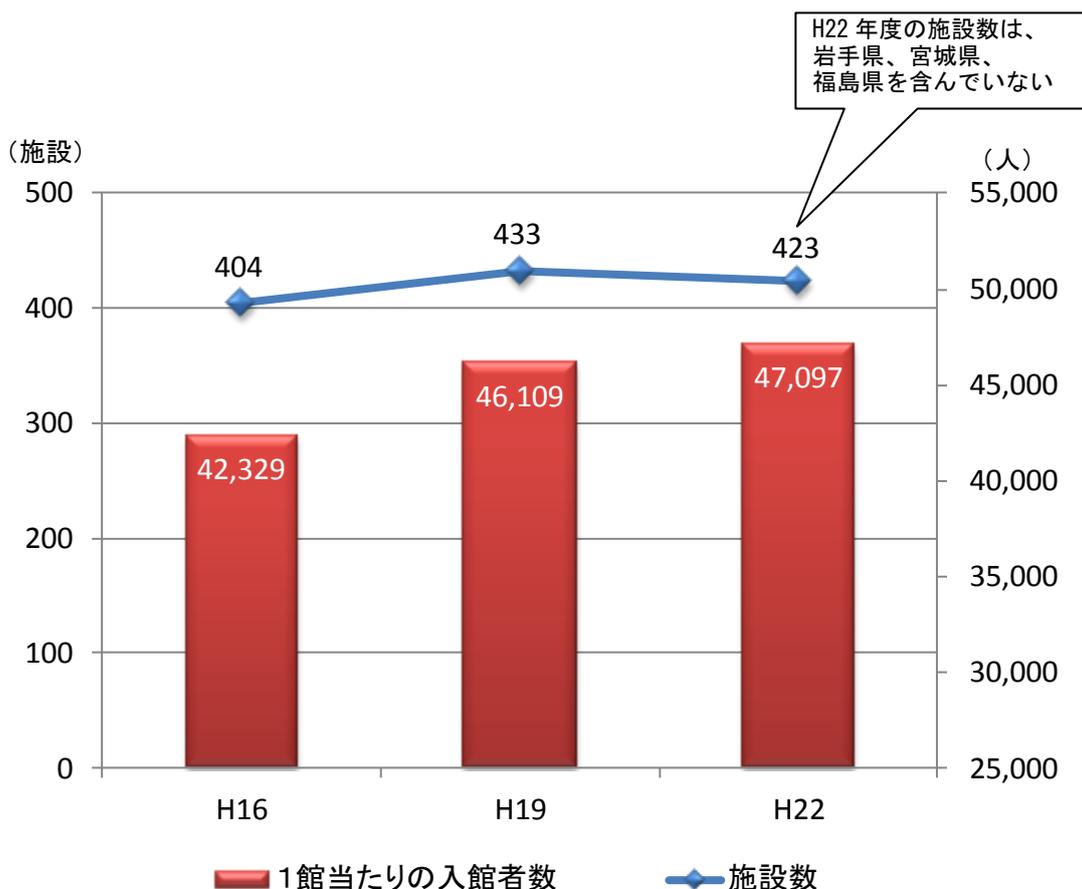
本市の埋蔵文化財や重要文化財等の状況を踏まえて、歴史伝統館(基本計画)の機能を確保

草津市にある埋蔵文化財や重要文化財等の貴重な歴史・文化資源を適切に収蔵、保管、展示できる施設(文化庁の認定を受けた施設)がないことから、歴史伝統館を整備し、市民がこれらの貴重な歴史・文化に触れ、教養や知識を高める機会を創出していく必要があります。

特に、次世代を担う子供たちに対しては、様々な活動等を通じて、楽しみながら、ふるさと草津の歴史・文化に触れることができる機会を創出し、後世に伝えていく意識を醸成していくことが大切です。

近年における全国の歴史博物館の動向をみても、平成22年度の歴史博物館の数は、423施設(登録博物館と博物館相当施設の合計)となっており、平成16年度以降、一貫して増加傾向にあることが視えます(注:平成22年度の施設数には、岩手県、宮城県、福島県の施設数が計上されていないため、施設数が少なくなっています)。

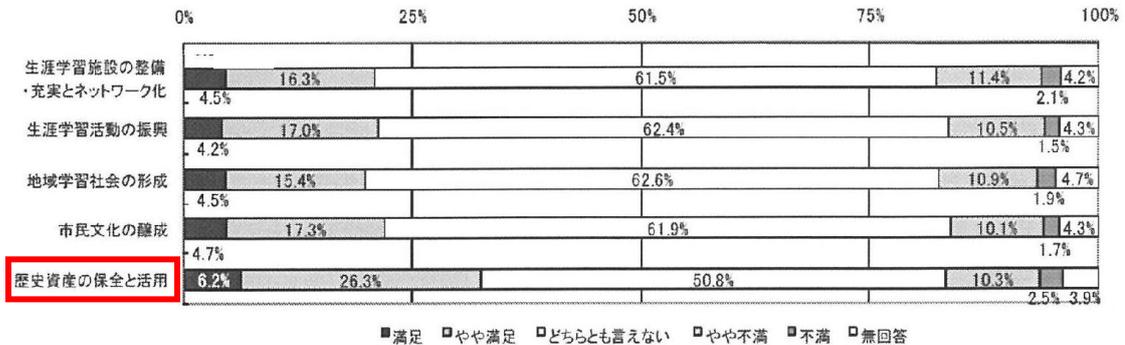
1館当たりの年間入館者数も平成16年度以降、一貫して増加傾向を示しており、地域の歴史・文化に係る人々の関心が高まっていることがうかがえます。



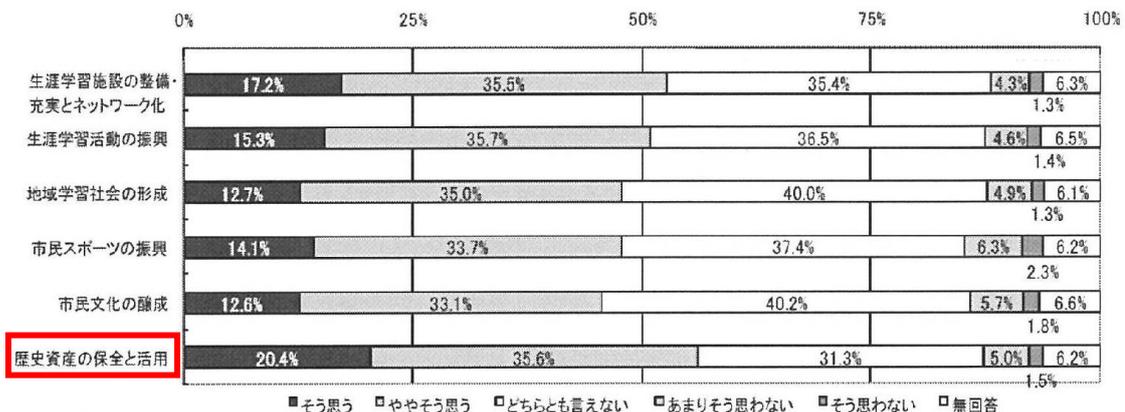
グラフー歴史博物館(全国)の施設数と1館当たりの入館者数の推移

(資料:社会教育調査(文部科学省))

平成 23 年度の草津市のまちづくりについての市民意識調査では、基本方針別に満足度評価と重要度評価を行っています。このうち「人」が輝くまちをつくるための基本方針に係る満足度調査をみると「歴史資産の保全と活用」に関する満足度は、高いものであるとは言えません。一方、重要度評価をみると、いずれの項目も高い評価を示す中、「歴史資産の保全と活用」に係る評価が最も高くなっており、「歴史資産の保全と活用」が重要な取り組みとして認識され、市民のニーズも高いことがうかがえます。



グラフ「人」が輝くまちをつくるための基本方針に係る満足度評価（市民アンケート結果）



グラフ「人」が輝くまちをつくるための基本方針に係る重要度評価（市民アンケート結果）

（出典：平成 23 年度 草津市のまちづくりについての市民意識調査）

以上のことから、（仮称）市民文化の森基本計画の基本理念等を踏まえ、また、草津市における埋蔵文化財や重要文化財等の状況を勘案しつつ、これらを適切に保管し、さらに活用するための常設展示等ができる歴史伝統館の機能を確保していくものとします。

（仮称）市民文化の森基本計画

<基本理念>

文化財の調査・保護と歴史学習の拠点をつくります。

<基本方針>

- ・継続する埋蔵文化財発掘調査に対応する施設の設置
- ・文化財収蔵施設の設置
- ・各種文化財の展示スペースの設置
- ・歴史学習ができる体験スペースの設置
- ・講座やイベントの開催
- ・野路小野山製鉄遺跡切り取り遺構の復元

(3) 機能配置の検討

施設の特性と市有地の有効活用を考慮して三ツ池に配置

- ・草津市の歴史に関する施設として草津宿街道交流館が存在しますが、重要文化財を保管できる機能は備わっておらず、規模的にも草津市の文化財を収蔵・展示するのに十分ではないことから、他の場所での整備が必要です。(重要文化財を保管するためには文化庁からの承認が必要です。)
- ・歴史文化としての一体性の観点から、国史跡野路小野山製鉄遺跡に隣接する野路公園は、候補地の1つとして考えられますが、公園整備の時期が未定なため、施設整備の早期実現は難しい状況です。
- ・このため、(仮称)市民文化の森基本計画で計画されていた三ツ池での整備を検討していきます。

三ツ池

草津市の歴史・文化発信の場

